

令和 5 年 5 月 22 日現在

機関番号：32607

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K17438

研究課題名（和文）トップマネージャーの変革型リーダーシップ獲得に影響した省察的内省のメカニズム解明

研究課題名（英文）The mechanism of the relationship between reflection with transformational leadership of director of nursing

研究代表者

小玉 淑巨（Kodama, Yoshimi）

北里大学・看護学部・准教授

研究者番号：00803230

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：全国200床以上の病院に勤務する看護部長347人への質問紙調査を行い、看護部長のリーダーシップと省察的内省への関連を明らかにした。また、20名の看護部長に対してインタビューを行い、うまくいった事例や困難だった事例の語りから内省の様相を明らかにした。これらの結果を踏まえ、看護部長のリーダーシップの向上のためには、内省を支援する方法や内省を促進する場の提供の必要性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、これまで明らかになっていなかった内省を行うことが、変革型リーダーシップを高める可能性が示唆された点が学術的意義であると考えられる。また、看護部長の内省が具体的にどのような体験であったのかを明らかにした研究は貴重であるといえる。これまで看護部長を対象とした調査は国内外でも少ないため、本研究結果をもとに看護部長のリーダーシップ向上の教育の基礎資料となりえる。

研究成果の概要（英文）：A cross-sectional survey of 347 director of nursing in over 200 bed was conducted. It indicated that the relationship between leadership of director of nursing with self-reflection. Additionally, interview was conducted for 20 directors of nursing. They spoke about successes and difficulties with management and process of self-reflection. Based on their results, to acquire effective leadership, support system and opportunity for self-reflection need to develop.

研究分野：看護管理者

キーワード：看護部長 リーダーシップ 内省

1. 研究開始の背景

2015年の調査では7割超の病院で看護部長が病院運営会議に参画する(日本看護協会,2016)など、看護職のトップマネージャーである看護部長のリーダーシップが以前にも増して病院運営に多くの影響を与えている。平成28年度の診療報酬改定では、医療資源の効率的な配分や安定的な病院経営が求められる(厚生労働省,2017)など、今まで通りの運営方法では病院が生き残れない時代となっており、看護部長は時代のニーズに即した病院組織へと変革していくリーダーシップが求められる。このような背景のもと、近年、組織を変革できるリーダーシップとして変革型リーダーシップが注目されている。看護管理者の変革型リーダーシップは、看護の質の向上やスタッフの離職防止などに効果があることが分かっており(Cummings et al,2010)、マグネットホスピタル取得の要件となるなど、看護管理者が持つべきリーダーシップとなっている(American Nurses Credentialing Center,2017)。このように、変革型リーダーシップ獲得の必要性は高まっているにも関わらず、管理者が変革型リーダーシップを獲得していくメカニズムは十分に明らかにされていないことが指摘されており(八木陽一郎,2010)、看護管理者のための体系的な変革型リーダーシップ教育プログラムが開発されていない問題がある。

管理者の成長やリーダーシップ構築の7割は「経験」から得ていると言われ(Lombardo,2010)、効果的なリーダーシップの構築には「現場での経験」が重要といえる。さらに、この具体的経験について、経験の意味の探求や、失敗からの学びなど「省察的内省」することから個人が経験を知識や能力として体得できるとされる。先行研究(八木陽一郎,2010)では一般の企業の管理者を対象に、変革型リーダーシップと自己内省についての関連を調査しているが、メンターの存在の有無を考慮していないことや、一般企業の管理者と看護管理者との内省経験の違いがあり、研究結果を適応することの限界がある。

トップマネージャーである看護部長が効果的なリーダーシップとされる変革型リーダーシップを獲得した背景には、日常の具体的管理経験と省察的内省が関連していると予測されるが、看護部長の変革型リーダーシップ獲得に影響した省察的内省のメカニズムは定量的・定性的に調査されておらず、変革型リーダーシップ獲得のために省察的内省を効果的に行うためのエビデンスは不足している。以上から、看護部長が変革型リーダーシップを獲得に影響した省察的内省のメカニズムの解明が期待される。本研究結果より、仕事上の経験を応用したトップマネージャーの変革型リーダーシップ育成プログラムの開発に貢献できると考える。

2. 目的

本研究は、病院のトップマネージャーである看護部長を対象に変革型リーダーシップの獲得プロセスを明らかにするために、省察的内省に着目し、自記式質問紙調査を行う。また、自記式質問紙調査に回答した看護部長の中から、インタビューに同意を得た人に対して、内省の様相についてインタビュー調査を行う。本研究結果は、看護部長の変革型リーダーシップ獲得のための教育プログラム構築に役立つことが期待される。

3. 研究方法

1) 質問紙調査

2019年12月~2020年2月に、全国200床以上のDPC取得病院に勤務する看護部長1136名を対象に自記式質問紙を用いた横断調査を実施した。質問紙の内容は、看護部長のリーダーシップスタイル、内省、属性の構成とした。看護部長のリーダーシップスタイルは、Multifactor Leadership Questionnaire self-form(変革型5因子、交換型2因子、放任型2因子)を用いて測定した。省察的内省は、自己内省と自

己洞察の2因子からなる Self-Reflection and Insight Scale の日本語版を使用した。どちらの尺度も開発者に許可を得て使用した。分析は、説明変数を省察的内省、従属変数を看護部長のリーダーシップスタイルとし、重回帰分析を行った。

2) インタビュー調査

2021年6月～2021年12月に、全国200床以上のDPC取得病院に勤務する看護部長20名に対して半構造的インタビューを実施した。インタビューは、対象者の希望に合わせてオンラインもしくは対面で実施し、看護部長として組織を管理していく上で、うまくいった事例や困難だった事例、およびその事例の中でどのように内省したのかについて自由に語ってもらった。分析は、質的記述的分析を使用した。

4. 研究成果

1) 質問紙調査

記述統計の結果、看護部長のリーダーシップスタイルは変革型の下位因子である理想的影響・知的刺激・個別的配慮、交換型リーダーシップの下位因子である随伴報酬が高い得点であった。看護部長の内省と洞察の得点は中間値(midpoint)より高値であった。重回帰分析の結果、変革型リーダーシップの下位因子と内省および洞察は関連があった。交換型リーダーシップの下位因子と内省および洞察も関連が見られた。このことから、看護部長は内省や洞察を行う機会を積極的に行うことでリーダーシップを高めることが可能である。

2) インタビュー調査

看護部長の語りから、うまくいった事例として、勤務体制の改革、COVID-19の病棟編成などが語られ、困難な事例としては、スタッフの離職や看護管理者の育成、COVID-19の対応、意思とのコンフリクトなどが語られた。内省の様相として、実践を行いながら意図的に自分の行動や意思決定を振り返り、自分の行動や意思決定の是非について考えていた。一方で、もやもやして何かが引っかかると感じるものの、整理しきれない時には、ふとした日常の中で整理できる瞬間があった。その時には、書籍によって考えが整理される、誰かに聞いてもらうこともあった。看護部長は、自分の行動を振り返ることで、自分の行動の改善点を見つけ、次の看護管理実践の糧としていた。看護部長は意図的に内省を行い、時には時間をかけながら思考を整理していく様子が読み取れた。日々の看護管理実践を振り返ることは、看護部長の看護管理実践を高める可能性がある。内省を促すものとして、聞いてくれる人の存在だけでなく、書籍の活用も有効である可能性が示唆された。

1) 日本看護協会.2016年病院看護実態調査

2) 厚生労働省.平成28年度診療報酬改定の基本方針

3) American Nurses Credentialing Center. Magnet learning communities®

4) Cummings G., MacGregor T., Davey T., et al. (2010) Leadership styles and outcome patterns for the nursing workforce and work environment: A systematic review. International Journal of Nursing Studies 47,363-385.

5) Lombardo E. (2010) The career architect: development planner 5th ed. Lowinger international.

6) 八木陽一郎.(2010) 内省経験が変革型リーダーシップに与える影響-中小企業後継者を対象とした実証分析を通じて-日本政策金融公庫論文集.7. 67-80.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 小玉淑巨 佐藤可奈 深堀浩樹
2. 発表標題 看護部長のリーダーシップスタイルと省察的内省の関連
3. 学会等名 第25回看護管理学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小玉淑巨 佐藤可奈
2. 発表標題 看護部長のリーダーシップスタイルと個人特性の関連
3. 学会等名 第24回看護管理学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小玉 淑巨
2. 発表標題 看護管理者の変革型リーダーシップの先行要因とアウトカムに関するレビュー
3. 学会等名 第22回日本看護管理学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoshimi Kodama
2. 発表標題 Evaluation of leadership development programs for nursing administrations: a systematic review
3. 学会等名 22th East Asian Forum of Nursing Scholars (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------